

日本・米国・英国における大学スポーツの競技運営の概要

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第二回マネジメントWG

2017年11月20日(月)09時～12時

米国NCAAにおける大学スポーツ活性化に関連する施策・制度

米国では、「する」「みる」「支える」の観点で、大学スポーツの活性化のための施策が多数存在し、それらが好循環を生んでいると考えられる。

NCAAの方針(仮説)	具体的施策や制度	する	みる	支える
多様な大学がNCAAチャンピオンシップに参画する	Div.制度 / カンファレンス制度			
大学が、大学の自治・経営の中で大学スポーツの水準を保ちつつ、発展させる	大学内スポーツ局の設置			
Div.カンファレンス・競技毎の特性・潮流に応じたルール設計	細分化されたコミッティの設置			
	カンファレンスリーグとNCAAリーグの設置			
観客・競技者を考慮した施設づくり	施設要件(会場・トレーニング場)の設置・安全基準			
競技主義に走らない仕組みづくり	学業支援・表彰制度			
学内コミュニティの形成	ブランド・ロゴの統一、Home&Away方式			
地域コミュニティの形成	ボランティアの推奨・表彰制度			
NCAAでの資金調達	バスケットでの放映権と分配制度			
カンファレンスでの資金調達	アメフトでの放映権と分配制度			
大学での資金調達	体育局によるファンドレイジング(寄付含む)			
学生アスリートの負担を減らす	部費・旅費の無償化、奨学金の拡充、栄養サポート			
一般学生への還元	施設や食堂の共通利用			

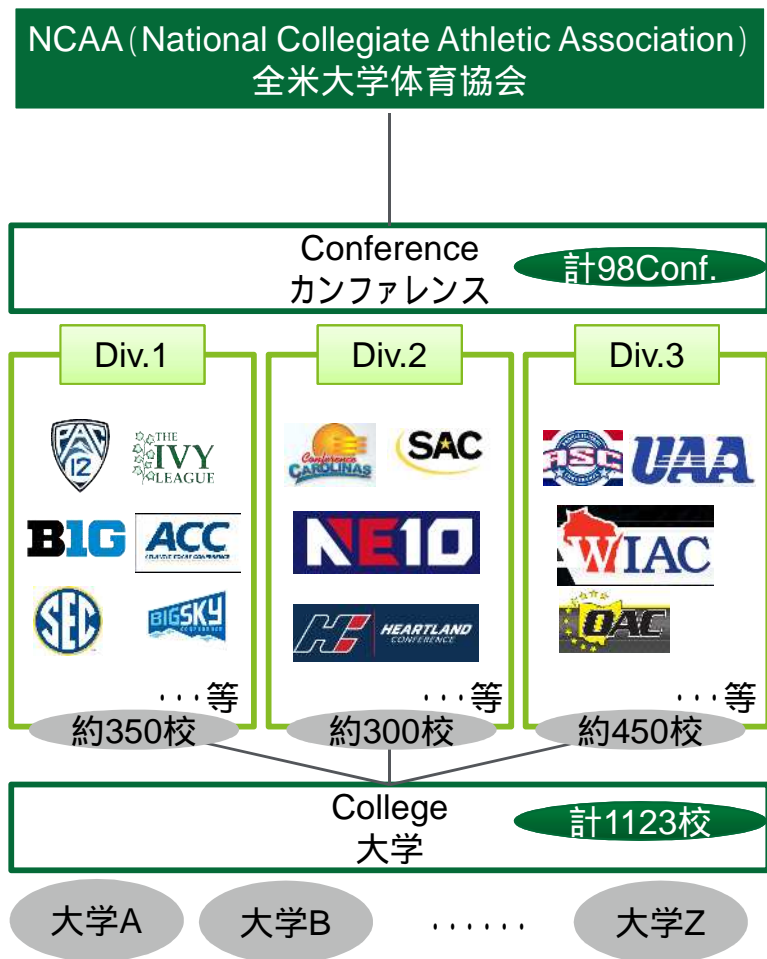
好循環のポイント(仮説)



【再掲】米国NCAAの体制

米国NCAAは大学及び大学の集合体であるカンファレンスを統率する組織です。カンファレンスでは各条件に基づきディビジョンが分かれており、カンファレンス毎に自治を行い、各大学ではAD局を設置し大学内の統治を行っている。

NCAA構造



■ **加盟1123校及び98カンファレンスの統治を行う「非課税非営利団体」**
 文武両道のお手本になる事・社会貢献を牽引する等7つのコアバリューを掲げ、大学スポーツの運営、学生アスリートの教育・育成の支援をする。
 意思決定は様々な「委員(コミッティ)」でなされている。委員は各大学の関係者・NCAA職員等で構成されており、ルールや罰則などすべての意思決定を行う。

■ **奨学金や各種制限の違いでグループを作り運営する「カンファレンス制度」**
 経営状態、州立・私立、土地や設備等各大学での状況は異なるため、全て同じ条件でNCAAの規程するルールを遵守しているわけではない。大学の規模や種目数、各種制限や奨学金の差でディビジョンを3つに分けている。原則として大学のディビジョン移動はない。各ディビジョンでは、5~15校程度で構成されるカンファレンスという地域リーグが存在しており、大会等は当該カンファレンス内で行われる。カンファレンス内でのリーグ戦は勿論、年に1度NCAAトーナメントと呼ばれる全加盟大学(正確にはセレクション)でのトーナメントも存在する。

➢ **柔軟なリーグ編成及び競技選択**
 NCAAに加盟しているリーグや大学は、すべての競技に参加しているわけではなく、地域特色等を優先して競技選択している。例えば沿岸部のカンファレンスでは冬スポーツ(米国ではスポーツのシーズン制を導入)は選択していない。大学の設備など経営状況とも密接に関係するため、場合によっては近隣のカンファレンスと共同で開催するなど柔軟な競技編成・大会運営を行っている。

■ **学内スポーツを統治する「Athletic Department(体育局)」(以下AD局)**
 各大学内ではAD局が、独立採算の組織として存在している。学内のスポーツ施設の管理、運用は勿論、大学スポーツの方針なども策定する。NCAAやカンファレンスとも密に連携しルールの遵守管理や各競技のコーチ採用権利もAD局にある。

出所: 現代スポーツ評論36「アメリカの大学スポーツNCAAから何を学ぶか(宮田由紀夫)」 出所: NCAAオフィシャルHP「<http://web1.ncaa.org/memberLinks/links.jsp?div=2college-athletes>」

英国BUCSの競技形式

英国の大学スポーツの統括団体であるBUCS (British Universities and Colleges Sport Limited) では、各競技(団体・個人)の競技成績により「大学単位」でポイントを付与し、年間総合優勝を競う形式を採用している。

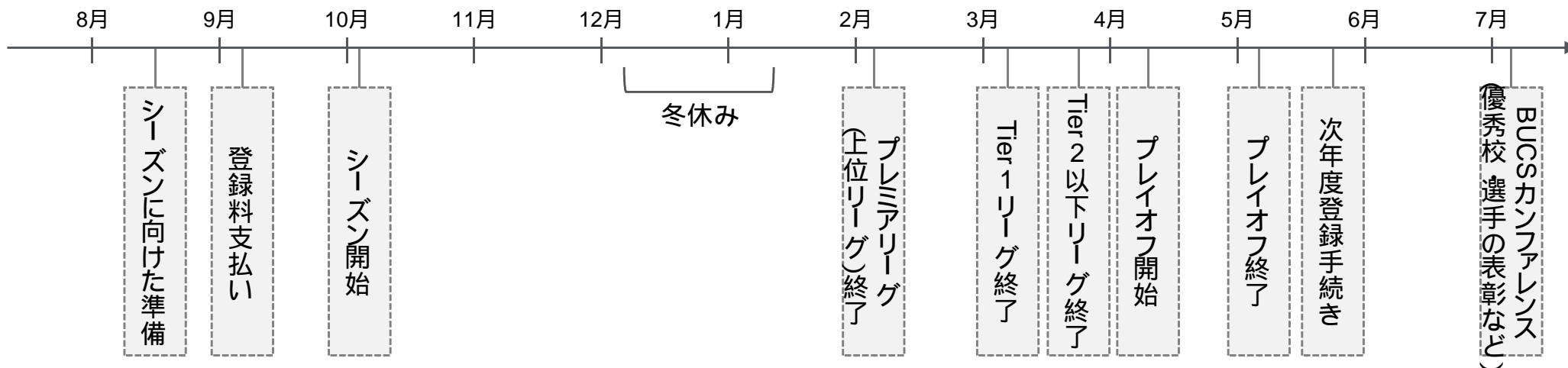
開催競技と参加者

- 約170の大学が参画する大学間対抗戦
- 50以上の競技(陸上、サッカー、バドミントン、車椅子バスケットなどのオリパラ競技に加え、ラグビーやアメリカンフットボール、オリエンテーリングなども)
- 年間約10万人(団体競技5,700+チーム 個人競技33,000+人)

対戦形式

- 毎週水曜日 (League: 総当たり戦: 主に団体競技) 午後の授業は休み
- 週末 (Cups: トーナメント制: 主に個人競技)
- League、Cup共に、大学単位でポイントを獲得、年間総合優勝を競う
→近年、大学ブランド化の手段として注目されている

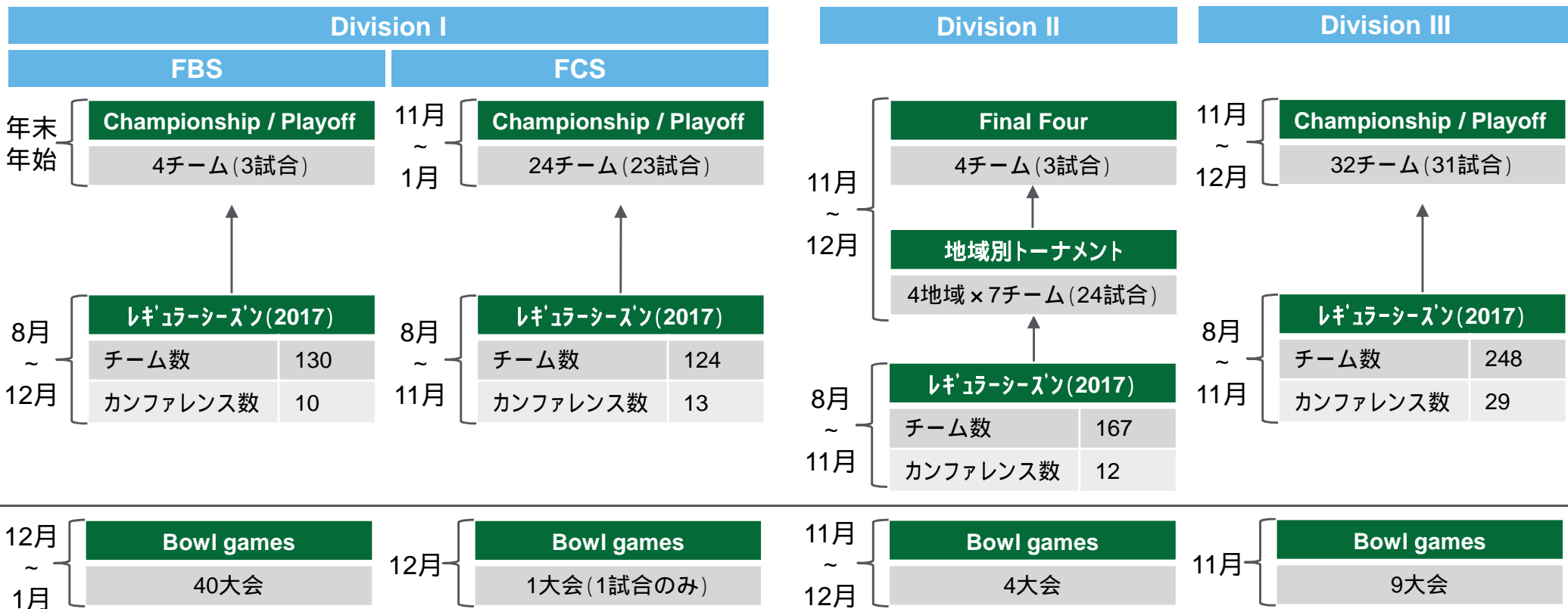
BUCSリーグ年間スケジュール(Season2016/17)



大学の競技別大会等の開催状況（米国） - アメリカンフットボール

米国の大学アメリカンフットボールは各Div.毎にそれぞれのレギュレーションで開催されているが、野球同様、各Div.共に、各カンファレンスにおけるレギュラーシーズンの代表校によるNo.1決定戦が開催されている。また、レギュラーシーズンとは別に大会(Bowl games)が開催されている。

大学アメリカンフットボールの大会等概要(米国)



FBS Championship / Playoff

- 13名の選考委員により選出された4チームがトーナメント形式で対戦
- 歴史的な6つのボウル・ゲームの持ち回りで、毎年異なる都市で開催

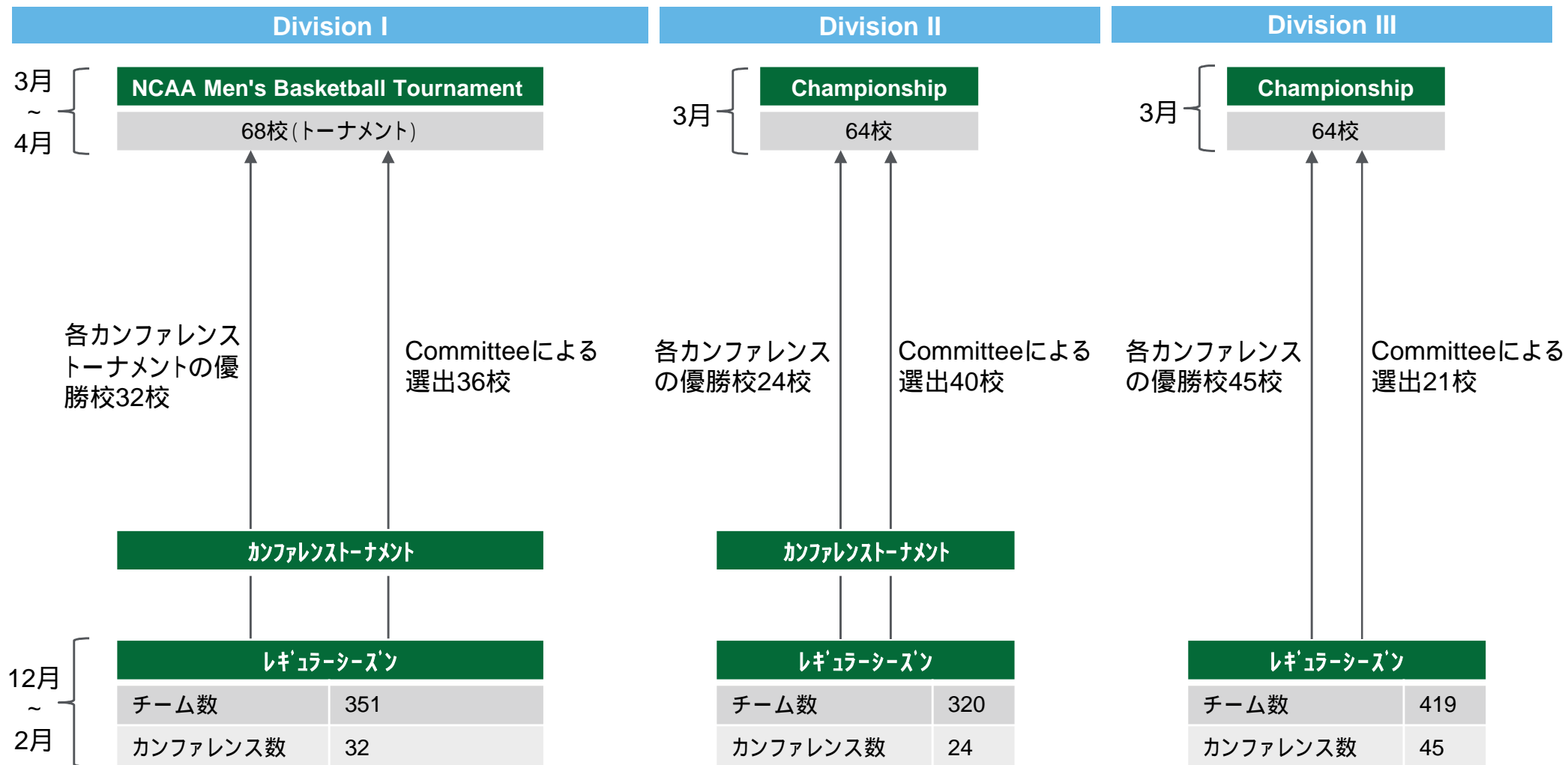
NCAAが公式に認可した大会ではなく、カンファレンスの代表により運営される大会

- レギュラーシーズンは、1シーズンあたり各チーム最大12試合までとされている。各校はそれぞれカンファレンス内外のチームと対戦
- 同一カンファレンス内の対戦成績により、カンファレンス内の順位は決定されるが、ボウル・ゲームなどへの出場に関しては、所属外のカンファレンスのチームとの対戦成績も加味されて判断される

大学の競技別大会等の開催状況（米国） - バスケットボール

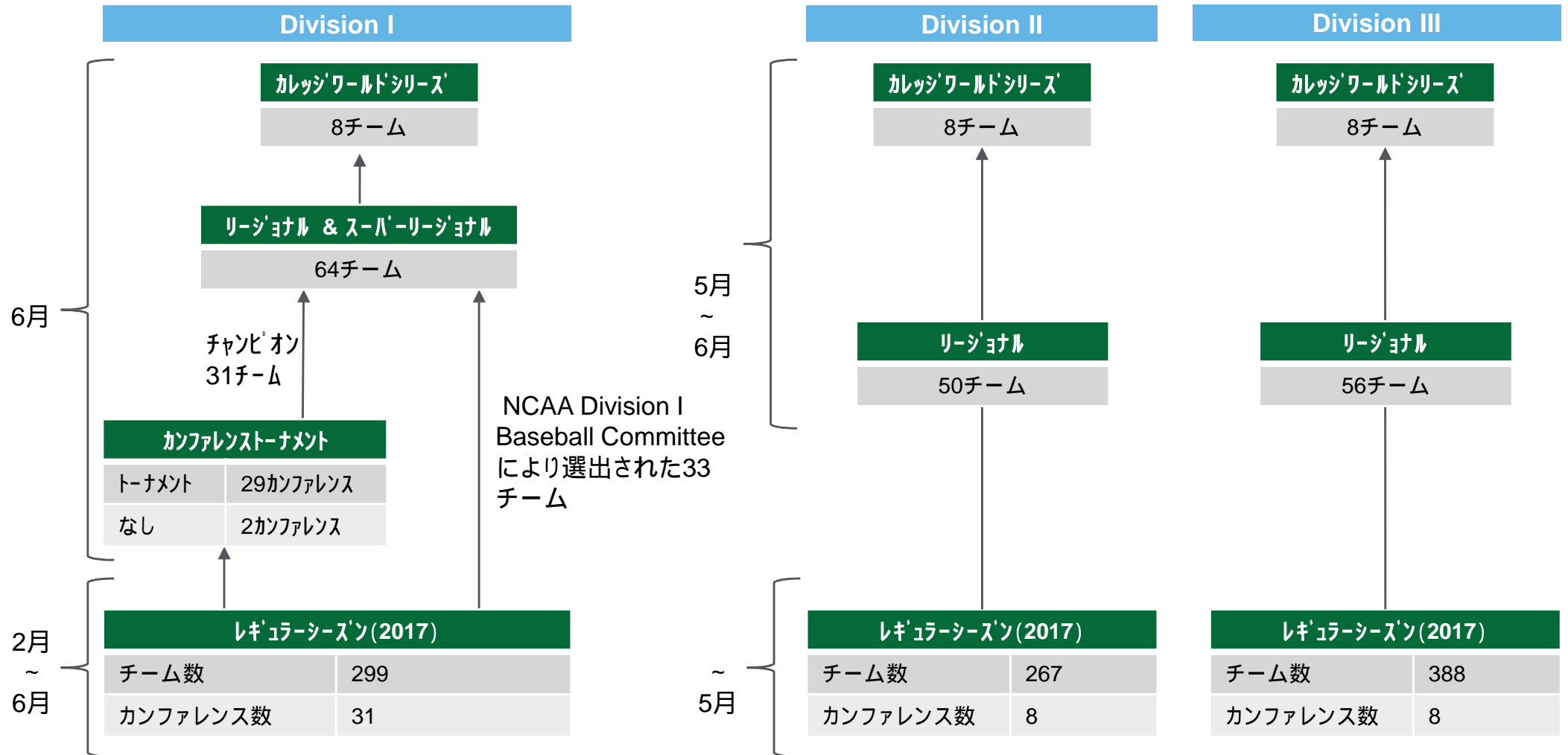
男子バスケットボールでは、Div.1の全米バスケットボールトーナメント（通称：March Madness）に代表される選手権大会が各Div.で開催されている。各カンファレンスの優勝校の他に、ランキングや試合内容をもとに、NCAAのCommitteeの選考によっても代表校が選出される。

大学バスケットボール(男子)の大会等概要(米国)



米国の大学野球においては、各Div.共に、各カンファレンスにおけるリーグ戦による代表校によるNo.1決定戦が開催されている。Div.1ではカンファレンストーナメントの優勝校以外にもCommitteeにより代表校の選出が行われている。

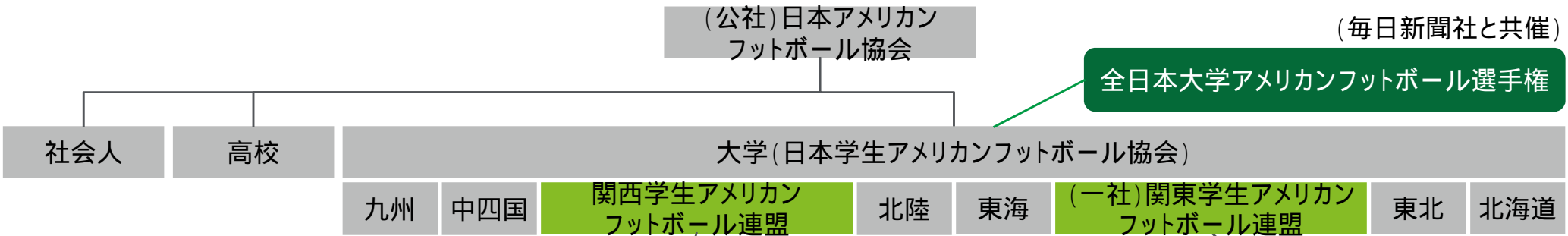
大学野球の大会等概要(米国)



大学の競技別大会等の開催状況（日本） - アメリカンフットボール

8つの地域で連盟が組成されリーグ戦が開催されている。11-12月にかけて実施される全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の決勝である甲子園ボウルの注目度が高く、毎年テレビ放送も行われている。

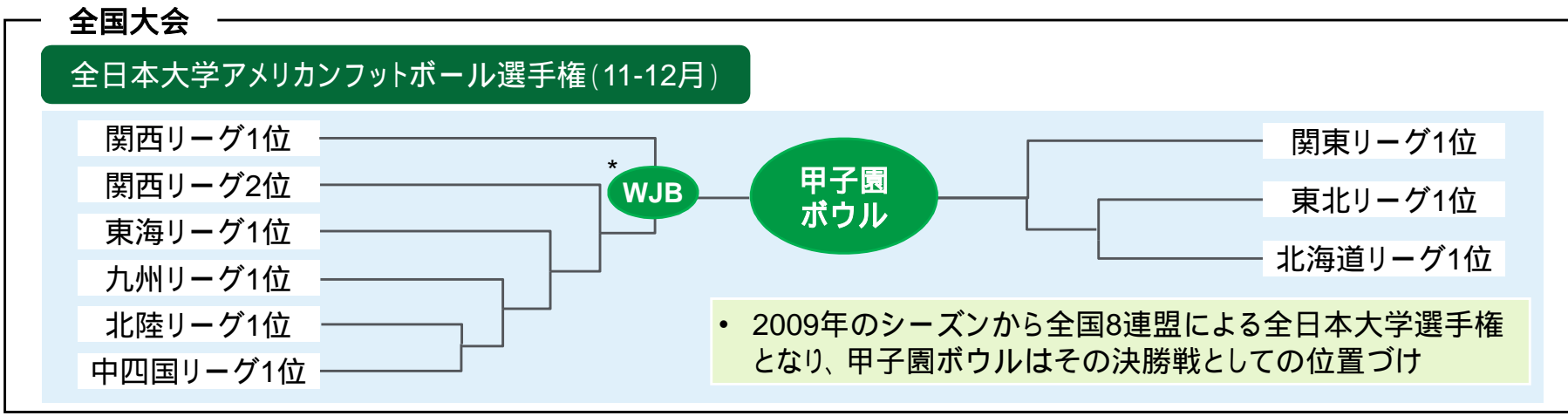
大学アメリカンフットボールの大会等概要(日本)



- リーグ戦を年1回秋季に開催。Div.1～3の3部制、入れ替えありのオープン形式
- Divisionまたはブロックごとに総当たり1回戦(1クォーター12分制)を戦い、勝ち点で順位を決定する

DIVISION1		8校
DIVISION2	Aブロック	6校
	Bブロック	6校
DIVISION3	Aブロック	6校
	Bブロック	6校
	Cブロック	5校
	Dブロック(少人数11人制)	7校
	Eブロック(6人制)	4校

1部リーグ	TOP8リーグ					8校		
	BIG8リーグ					8校		
2部リーグ	Aブロック			8校	Bブロック		8校	
3部リーグ	Aブロック	6校	Bブロック	6校	Cブロック	6校	Dブロック	6校
	Eリーグ	Aブロック	4校	Bブロック	4校	Cブロック	5校	
医科歯科リーグ1部							6校	
医科歯科リーグ2部	Aブロック		3校	Bブロック		3校		
7人制リーグ	Aブロック		4校	Bブロック		4校		



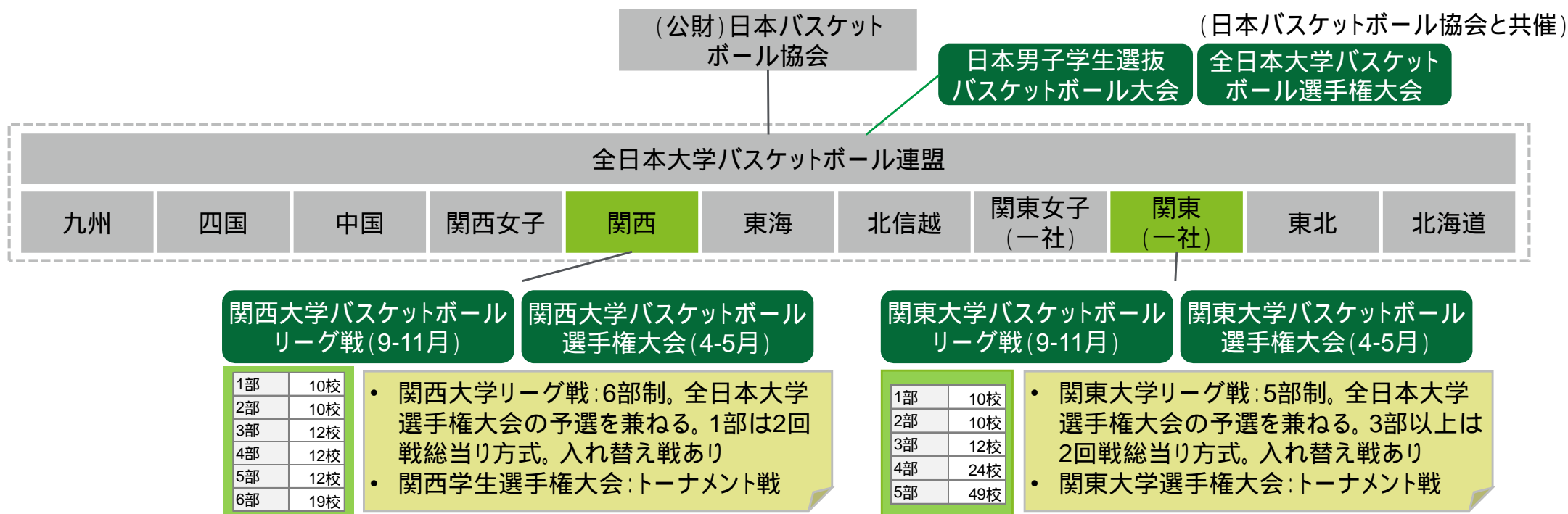
• 2009年のシーズンから全国8連盟による全日本大学選手権となり、甲子園ボウルはその決勝戦としての位置づけ

* WJB(WESTERN JAPAN BOWL): 西日本代表決定戦

大学の競技別大会等の開催状況（日本） - バスケットボール

男女9つの地域で地区学連が設けられ、各地区学連毎にリーグ戦、選手権大会(トーナメント戦)が開催されている。各地区学連でのリーグ戦の成績をもとに、全日本大学バスケットボール選手権大会が開催されている。

大学バスケットボールの大会等概要



全国大会

日本男子学生選抜バスケットボール大会(7月)

- 各地区学連(中国四国は中四国として1校)の代表校8チームをA(4チーム)・B(4チーム)の2グループに分け、総当たり形式で対戦

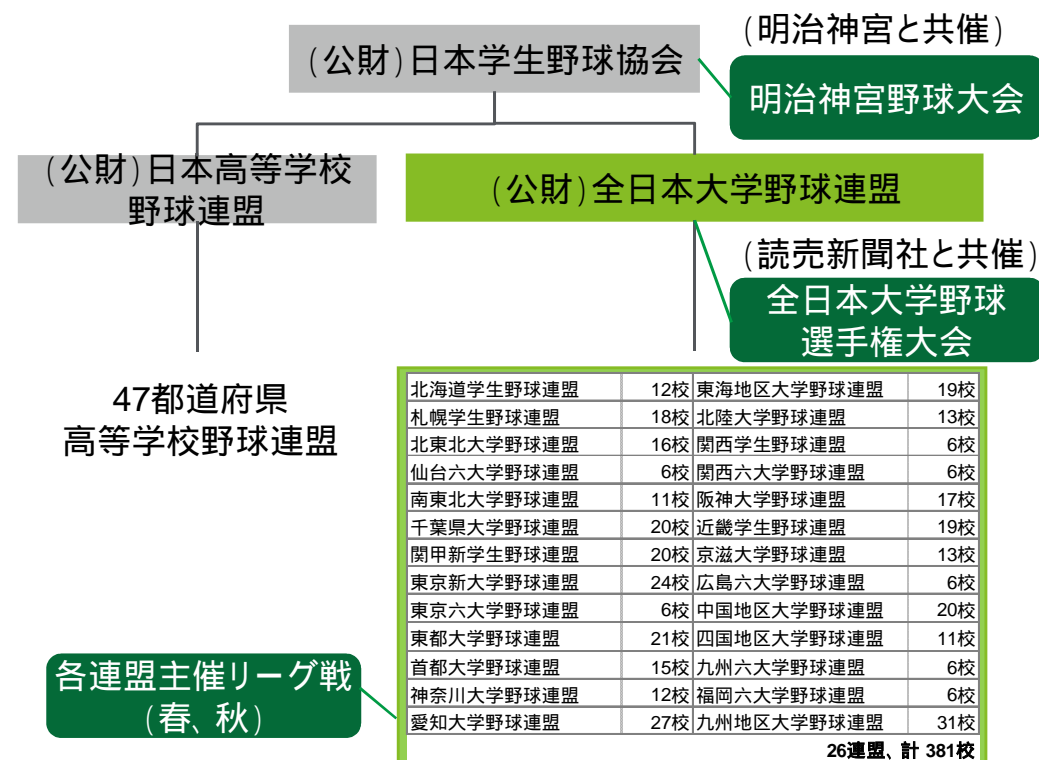
全日本大学バスケットボール選手権大会(11月)

- 男子32大学、女子32大学によるトーナメント方式の大会
- 前年度1位～4位の地区学生連盟より1大学ずつの4大学を推薦、開催地区の学生連盟より1大学を推薦、残り男女27大学は大学登録数の按分比率により決定

大学の競技別大会等の開催状況（日本） - 野球

日本の大学野球の公式戦は、主に、全日本大学野球連盟に所属する26連盟における春・秋の年2回のリーグ戦とその優勝チーム等による年2回の全国大会により構成される。

大学野球の大会等概要



東京六大学野球 総入場者数(人) 春・秋リーグ合計

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
279,962	331,965	321,734	344,562	286,727

- 各リーグともに春・秋の年2回のリーグ戦を開催。主に、総当たり・2勝先行勝ち点方式により行われている
- 6大学のみでのクローズド形式のリーグ、複数の部によるオープン形式(入替戦あり)のリーグの両方が存在

全国大会

全日本大学野球選手権大会(6月)

- 全日本大学野球連盟に加盟している各大学野球連盟の春季リーグ戦の優勝チーム(九州地区大学野球連盟の出場枠のみ北部・南部の2枠)によるトーナメント大会

総入場者数(人)

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
29,234	33,664	40,703	33,798	42,014

明治神宮野球大会(11月)

- 大学・高校2つの部から構成されるトーナメント大会
- 各大学野球連盟の秋季リーグ戦の優勝チームなどの中から11チームが参加
- 東京六大学野球連盟と東都大学野球連盟のみは単独出場枠を持ち、他の代表に関しては地域単位で複数連盟間での代表決定戦により決定

総入場者数(人) 高校・大学の合計数

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
36,071	47,240	35,016	53,704	53,259